

R6.8からR8.9への国総研マニュアルの主な変更点

1.試算等を踏まえた改定のポイント

1-1.GHG排出量算定用原単位としてAIST-IDEAを用いた場合、GHG算定に15(人日/事業)かかる場合があることが分かった。

事務所等の反応・感触では、AIST-IDEAを用いた算定では、①単位換算が複雑で相当の工数を要すること、自動化等も困難であること、②材料と対応するAIST-IDEAを見極めることが困難で相当の工数を要すること、などが分かった。

1-2.これらと併行して研究開発した①「物価調査方式原単位」の考案により、単位換算が不要となった。また、②「情報連携キー」など情報連携技術等を考案し、機械的突合を試行した。

①②を併用した場合、15(人日/事業)かかった試算は0.3(人日/事業)に短縮できるなど、GHG算定の社会実装や自動化・半自動化に目処が付いた。

2.環境省・経済産業省基本ガイドライン等を踏まえた改定のポイント

2-1.基本ガイドライン・ISO等の精査を踏まえ、R7マニュアルでは各項目ごとに参照・準拠・整合させたガイドライン・ISO等を明記した。また、「段階」「時点」等のワーディングを精査した。

2-2.基本ガイドライン「カテゴリーの算定範囲からの除外の基準」・Q&A「カットオフ基準」の解釈の誤りがあったため訂正した。R6.8マニュアルでは間接経費等についてGHGを算定していなかったが、R8.9マニュアルでは間接経費なども含めた全事業費についてGHGを算定することに訂正した。

3.SuMPOの推奨事項を踏まえた改定のポイント

3-1.地球温暖化係数「評価期間100年の係数」に指定した。